

第90回全国書画展覧会 審査長 紹介

書写の部



文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官

豊口和士先生



文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官

鈴木太郎先生

画の部



文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官

小林恭代先生

第90回全国書画展覧会「書写の部」の審査を終えて

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 豊口和士

まずは、第90回全国書画展覧会「書写の部」に出品されたすべての児童・生徒の皆さんの出品に向けてのご努力を讃えたいと思います。そして、見事受賞された皆さん、本当におめでとうございます。ご指導に当たられた先生方、ご支援くださったご家族の皆様におかれましてもお喜びのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。

審査を通しまして、どの出品作品からも日頃の学習の成果が確かに見て取れ、出品された全国の児童・生徒の皆さんが熱心に学習し作品制作に取り組まれて様子や思いが伝わってきたことを何より嬉しく思います。

一般社会では、パソコンやスマートフォンをはじめとする多様なICT機器が更に進展し続け、加えてAIが生活の中で担う役割が広がってきています。こうした状況下で、生活が便利になる一方で、私たち人間の活動やこれまで担ってきた仕事などがAIや機械にとって代わられてしまうのではないかとといった心配も生じてきています。同様に、手で文字を書くことの必要性やその場面が減少傾向に向かうことが心配されています。

言葉を使つての他者とのコミュニケーションにおいて、情報内容を正確に記録し、情報内容を確実に他者に伝えるためには、活字やキーボードで打った文字データで十分で、正確さにおいては確かに有用ですが、手で書いた文字には、情報内容の記録・伝達を越えて、文字を手書きする際の運筆の勢いそのままに書き手の思いや気持ちを伝えることができます。とりわけ、毛筆で書かれた文字には表現の多彩さと美が備わっています。その表現の多彩さや美が広く社会で認知され共有されてきたことが、まさに文字文化なのです。それを体験し味わってきた皆さんには、手で書かれた文字、毛筆で書かれた文字の価値や魅力を今後も更に味わいながら広く発信して欲しいと思います。

本年度の内閣総理大臣賞「深緑」、文部科学大臣賞「はす」、「実行」は、それぞれに学校教育における書写の学習の成果が確かに発揮され、揺るぎない文字の構築性、それを支える運筆の正確さと流麗さが特に優れており、毛筆を通して学ぶ意味としっかり向き合い、毛筆の特質・特性を生かした表現の美しさが見事に結実し、それが見る側に確かに伝わってくる作品でした。小学校・中学校の国語科の書写において毛筆を使って学習することは、硬筆だけでは学べない点を学ぶことが目的であり、それはまさに運筆を体験し理解することであり、手で文字を書くことの価値や意義を支える点でもあります。

小学生の皆さんは、毛筆による書写の学習だけでなく、硬筆を使った普段の生活の中でも文字を正しく整えて、丁寧に書くことを心がけてください。中学生の皆さんは、目的意識・相手意識を持って、豊かに伝えるために効果的に書くことを心がけ、書写の学習以外でも身の回りの多様な表現や文字文化の豊かさにも目を向けてみてください。

最後に、全国書画展覧会の運営にご尽力いただきました皆様に敬意を表するとともに、本展覧会が日本の伝統と文化の継承と理解の推進に益々寄与され、子供たちの確かな成長と我が国の「文字文化」ならびに「芸術文化」の進展にさらに大きな役割を担うべく、一層発展されることを祈念いたしまして審査講評といたします。

全国書画展覧会（書写の部） 令和4年度の審査を終えて

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 鈴木 太郎

全国書画展覧会も第90回を迎えました。本会においては、日ごろからの練習の成果が感じられる力作が全国各地から多数集まりました。小・中学校における書写指導が充実していることが感じられます。

小学校における書写の学習では、文字を書く基礎となる「姿勢」、「筆記具の持ち方」、「点画や一文字の書き方」、「筆順」などの事項から、「文字の集まりの書き方」に関する事項などへと系統的に学習し、各教科等の学習活動や日常生活に生かす書写の能力を身に付けることを目指しています。中学校では、小学校での学習を踏まえ、楷書だけでなく行書の書き方も学習することを通して、我が国の伝統的な文字文化を継承し、これからの社会に役立つ様々な文字文化に関する「知識及び技能」について理解し、文字を効果的に書くことができる力を身に付けられるように学習します。

審査会では、小学校1年生から中学校3年生までの9学年分の作品を一度に見ることで、このような小学校から中学校までの系統的な学習の成果を感じることができました。審査に当たっては、学校での書写の学習を踏まえて正しく整えて書かれているものを選ぶように努めました。入賞した作品に共通しているよい点としては、用紙全体との関係に注意しながら文字の大きさ・配列などを考えている、点画の種類を理解して適切に書いている、点画のつながりを意識して書いている、行書の特徴を理解して書いている、名前の書き方・用紙の扱い方も含め丁寧に書く気持ちが伝わってくるなどが挙げられます。本冊子に作品が多数掲載されていますので、全国の小・中学校における書写の学習の際に、参考にしてほしいと思います。

さて、現在、小・中学校には1人1台端末が配布されています。このことにより、学習の様々な場面において「文字を書く」だけでなく、「文字を打つ」が増えているのではないのでしょうか。「文字を打つ」ことに慣れてくれば、「書く」ときに比べて速いペースで自分の考えを文字に表したり、入力した文字を容易に消したり、付け加えたりすることができ、学習を効果的に進められるでしょう。その一方で、小・中学校の学習では、丁寧に文字を書くことで、自分の気持ちを表現することや、漢字の成り立ちや意味について考えをめぐらすことなどにも重要な意味があります。毛筆を用いて、筆圧や強弱のあるリズムカルな運筆を体で感じながら文字を書く楽しさを実感することも、文字を文化として認識し、その豊かさに触れながら効果的に文字を書くことにつながる大切なことです。今後も、本展覧会への出品などを一つの目標にして、学校などで学習した成果を存分に発揮し、楽しみながら文字を書くことを大切にしてほしいと思います。

終わりに、参加した児童生徒の皆さん、指導に当たられた全国の先生方、優しく見守ってくださった御家族、大会運営に御尽力いただいた関係各位に心より感謝申し上げます。全国書画展覧会が、日本の書画に関する教育の発展に多大な貢献を続けられていますことに深い敬意を表すとともに、一層の御発展を祈念しまして審査講評といたします。

全国書画展覧会（絵画の部）の審査を終えて

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 小林恭代

今年も全国書画展覧会に、多くの児童・生徒の皆さんの力作が寄せられました。自分の表したい思いや願いを大切にした作品と出会うことができ、大変うれしく思います。児童・生徒の皆さんの努力と、先生方のご指導、ご家族の励まし、大会運営に携わった皆様のご尽力に、心より感謝申し上げます。

私たちは生活をしていく中で、様々な形や色などと出会います。自分の身近な生活の中にあるよさや美しさに目を向け、感じ取ることができれば、より豊かな人生を送ることができるでしょう。

表したいことを見付けるきっかけは、自分の感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことなど、様々なにあります。心に強く感じたこと、思い出に残っていること、感動したこと、どうしても伝えたいことなどから、表したいことを見付けられるということは、心豊かなことでもあるのです。美しいものや優れたものに接して感動する心や、体験したり、多くの人たちと交流したりして、様々なことを感じ取ること、思いを膨らませたり想像の世界を楽しんだりすることを大切にしてほしいと思います。

また、自分が表したいと思ったことをどうしたら表せるか考え、表現方法や材料、用具などを選んだり、組み合わせたりして、工夫して表すことにも挑戦していただきたい。

このような観点から、3つの作品を紹介したいと思います。

（1） 内閣総理大臣賞

夕焼けの中に堂々と立つガジュマルの木を、画面いっぱいにえがいています。木の表面をそっと触ってみたら、ごつごつとした質感を感じました。幹や枝の形からも、長い年月を生き抜いた木の生命感が伝わってきます。そばで遊ぶ子供はだんだん小さくなるようにかかれており、ずっと奥まで行けるような奥行きも感じられます。豊かな自然の中で体験したこと、実際に木を見たり触ったりして感じたことを、どのように表すかよく考え、粘り強く表していったことが伝わってきました。「納得のいく絵をかきたい」という強い思いが、この絵の魅力につながっています。

(2) 文部科学大臣賞 小学生の部

クラスの友達とバスに乗って校外学習に出かけ、思い切り遊んだ思い出をえがいています。画面全体が明るく、楽しさであふれています。空が水色できれいだっこと、白い雲がふわふわと浮かんでいたこと、くさり山で追いかけてっこをしてたくさん体を動かしたこと。実際に自分で体験したことだからこそ、生き生きとした形と色で表せたのでしょう。絵を見ていると、こちらも笑顔になり、一緒に遊びたくなります。これからも、自分が感じたことを素直に、楽しく表現して行ってほしいと思います。

(3) 文部科学大臣賞 中学生の部

絵の具やスケッチブック、靴など自分の身近にあるものと花々の中に、埋もれるように横たわる人がえがかれています。何をかくのか、どのように画面を構成していくのか、どのように着彩していくのかなど、様々なことを考え抜いて表していることが伝わってきます。丁寧に自己と向き合い、表現することの意味や創造的な工夫を考えた作品だと感じました。表現の意図を明確にもち、よりよいもの、より美しいものを目指して試行錯誤し、自分の表現方法を追求したこと。この作品の制作を通して学んだことは、これからの生活の中でも生かされていくことでしょう。

今回の審査を通して、児童・生徒の皆さんの感性の豊かさを感じるとともに、絵に表すことで様々な思いを伝えてくれたことを大変うれしく感じました。

自分の表したいことを見付け、表し方を工夫して表すということは、絵のみに限らず、生きていく上でこれからも大切になっていく力です。これからも夢や願いをもち、心豊かに豊かな生活を自ら創りだすことを大切に、表現することを楽しんで行ってほしいと願っています。引き続き、先生方には子供の思いを受け止め、つくりだす喜びを大切にされたご指導をお願いいたします。また、家庭、地域の皆様には、引き続き学校教育活動に一層のご理解をいただき、連携を深めていただけたらと思います。

最後に、「全国書画展覧会」の一層のご発展を祈念いたしまして、審査講評といたします。